

長野県行政・財政改革方針（案）に対して寄せられた主な意見の概要と県の考え方

募集期間 平成24年2月8日(金)～平成24年3月13日(火)

寄せられた意見の数 327件

(内訳)・県民 18件(関係者意見含む)
 ・市町村 2件
 ・県職員 307件(職場討議含む)

方針全体に関する意見

1 全般、行政経営理念

意見の概要	県の考え方
・行政経営理念は、組織全体の方向を示すものであり、行政・財政改革方針とは別立てで決めたほうがよいのではないか。	・今回の方針は、行政経営理念に基づくものですが、理念とそれを具体化するための方針とは一体で議論・検討し、定めることとしたものです。
・行政経営理念は、具体的な取組の大前提になるものなので、方針本文での位置付けを変更し、方針本文の前に掲載した方がよいのではないか。(同趣旨意見2件)	・意見を踏まえ修正します。<表紙裏に配置>
・行政の仕事は様々な分野、方向性があり、県組織全体として具体的なものを定めるのは難しい。それぞれの業務に応じた具体的なビジョンやバリューを各所属で作成したらどうか。(同趣旨意見3件)	・意見を踏まえ、バリューの欄にご意見の趣旨を追記します。<行政経営理念を修正>
・ミッション、ビジョン、バリューは日本語表記のみでよいのではないか。(同趣旨意見2件)	・覚えやすさとメッセージ性を考慮して、現行どおりとしたいと考えています。
・「ふるさと発展のため」「すみよいふるさとづくりのため」に修正(同趣旨意見2件)	・意見の趣旨も踏まえ「ふるさと長野県の発展」に記載を修正します。<行政経営理念を修正>
・「ふるさと」「長野県」に修正(同趣旨意見2件)	
・現行の表現は「全国に誇る」ことを目的としているように読めるため、これを省くとともに、「最高品質の行政サービスを提供し、県民のしあわせとふるさとの発展を実現します。」に修正してはどうか。	・意見の趣旨も踏まえ、「全国に誇れる」の表現は削除し、記載を修正します。<行政経営理念を修正> ・誇ることを目的としているのではなく、全国に誇れるような質の高い行政サービスの提供に主眼を置いているため、「最高品質の行政サービスの提供」については、原文どおりとしたいと考えています。
・全国に誇れるという他との比較は不要ではないか。また、最高品質のサービスとはどのようなことをいうのが不明確なので、「県民誰もが満足するような」などとしてはいかがか。(同趣旨意見20件)	
・「最高品質の行政サービス」の表現は一方的にサービスを提供するイメージがあるので、「暖かな」「手作りの」「より質の高い」などと表現するか、あえて入れなくてもよいのではないか。また、「最高」は現実的でないと思われる。(同趣旨意見21件)	・今回の方針では、「行政サービスの質の向上」に力点を置いていることから、原文どおりとしたいと考えています。
・最高品質の行政サービスの提供と職員の削減等は相反する理念ではないか。(同趣旨意見4件)	・持続可能な行財政基盤を構築しつつ、限られた経営資源を活用して質の高い行政サービスを提供していくことが求められていることから、原文どおりとしたいと考えています。
・市町村との協働や国に対して意見を出す姿勢が必要ではないか。	・市町村を含めた様々な組織との協働は「バリュー」に記載しています。また、国への意見については、本文中の「国への提言」に記載しています。
・「住んでよかった」は、移住者をイメージするので、生まれ育った県民を意識し、「住みやすいと感じ」に修正してはどうか。	・ミッションの説明については今回は省略し、別途趣旨について周知する予定です。
・過剰なサービスは県民の幸せにはならないため、説明文の「限りなく」を削除してはどうか。(同趣旨意見3件)	・ミッションの説明については今回は省略し、別途趣旨について周知する予定です。

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションとビジョンの違いが明確でないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションは県組織の「使命・目的」、ビジョンは県組織が「目指す姿」として整理しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・県民からの信頼・期待をベースとして、ミッションに向けてどうするのかを考え、施策を展開し、行動するのが組織のあるべき姿であるため「県民の信頼を出発点として考え、最高水準の行政サービスにチャレンジする県組織」という一本に統合してはどうか。（職員の部分は削除） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「最高品質の行政サービスの提供」というミッションとの整理上、また、職員の満足度の向上も行政改革における大切な視点であることから、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・正しい日本語訳をすべきであるため、「目指す姿」「目指す将来像」へ修正してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿をビジョンと英訳したのではなく、ビジョン（将来像）を、現在も含め常に目指していきたいという趣旨から、「目指す姿」と言い表しているため、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・「県民に常に信頼」「県民と市町村に常に信頼」に修正してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「県民」は市町村も含めた幅広い概念であるため、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・「常に信頼され」は大げさではないか。また、あえて言わなくてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表記しなくても趣旨は理解していただけることから「常に」を削除した形に修正します。＜行政経営理念を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> ・「期待される長野県」は「期待に応える長野県」の方がよいのではないか。（同趣旨意見3件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ修正します。＜行政経営理念を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> ・すべての職員が高い志と仕事への情熱を持つのは大きな組織においては理想論ではないか。（同趣旨意見2件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表記しなくても趣旨は理解していただけることから「すべての」を削除する形で修正します。＜行政経営理念を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> ・高い志を持ってという表現をあえてしなくてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事への情熱だけでなく、「高い志」を持って職務に当たることが県民サービスの向上につながると考えられるため、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・「活躍する」「行動する」に修正してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「行動」と比較して「活躍」は職員が「いきいきとして行動する」姿が連想され、より前向きであるため、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・県域としての長野県と行政体としての長野県なのかわかりにくいので、「長野県」「長野県行政、長野県職員」と修正するか、注釈をつけるべき。（同趣旨意見5件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ、「長野県」をそれぞれ「県行政」、「県組織」に修正します。＜行政経営理念を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> ・バリューの日本語訳は価値観であるため、「価値観と行動の指針（バリュー）」等に修正してはどうか。（同趣旨意見9件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ修正します。＜行政経営理念を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> ・「スピーディーに行動」「スピーディーかつ的確に判断し、取り組みます」に修正してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指針の本文の記載を修正します。バリューの個々の説明については今回は省略し、別途趣旨について周知する予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的に考え行動します」+「チームとして協力し合います」「主体的に考え、チーム一丸となって行動します」に修正してはどうか。いずれも各組織が県としてどう考え、取り組んでいくかという視点に立った指針であり、合わせることでより行動の指針がより明確になり、メッセージ性が高まるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に考えることと、チーム一丸となって行動することを合わせると、1文で2つの要素を含むこととなりますが、各々重要な視点であることから一部修正の上、それぞれ独立したものとして掲げることとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・公平性や法令順守の視点を追加してはどうか。（同趣旨意見4件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の点は大切な視点ですが、今回のバリューは、ミッション・ビジョンを達成するために全組織が共有する指針について記載することとしたため、原文どおりとしたいと考えています。なお、各職場にふさわしい指針を加える旨を追記しました。＜行政経営理念を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に関する表現も欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理意識を付け加えてはどうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コスト意識や現状に満足しない改革意識も必要ではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の育成の観点を入れる必要があるのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「県として」「県職員として」に修正してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリューの個々の説明については今回は省略し、別途趣旨について周知する予定です。

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 主体的には、「積極的に、前向きに」という趣旨だとすれば「主体的に考え行動します」「自律的に考え行動します」としてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見の趣旨も含みつつ、更に自らの意思、判断に基づいて行動するという意味合いもあることから、主体的に行動するの表記としたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 「様々な組織と協働」と「主体的に考え行動」の整合性がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的に考え行動」は、県としてどうしたいのかの意思を明確に行動することであり、「様々な組織と協働」は、県組織以外の多様な主体と協働し、効果的に施策を進めることをそれぞれ意味しています。
<ul style="list-style-type: none"> 様々な組織との例示がNPOのみだが、市町村を挙げるべき（同趣旨意見2件） 	<ul style="list-style-type: none"> パリュウの個々の説明については今回は省略し、別途趣旨について周知する予定です。
<ul style="list-style-type: none"> 「目標を定めて成果にこだわりをもつ」について、プロセスが大事な職場（福祉現場など）があり、丁寧な対応を行うために、時間がかかり、時に目標の期限に遅れるような場合もあるが、こうした取組が反映される文面としていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 趣旨は、一定の成果を出すことを重要としているものであり、プロセスや丁寧な対応を否定しているものではないため、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 「・・・思いに寄り添う」は主体性が感じられないので、「現場起点で考え行動します」の方が行動指針としてはふさわしいのではないか。（同趣旨意見7件） 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を踏まえ、記事を「県民起点で真摯に行動」に修正します。＜行政経営理念を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> すべてを結果で判断し、すべてを変える姿勢には疑問を感じる。（同趣旨意見3件） 	<ul style="list-style-type: none"> 結果にこだわることや変化を恐れない姿勢が大切と考えていますが、ご指摘のようにすべて結果で判断するとか、すべてを変えなければいけないという趣旨ではありません。
<ul style="list-style-type: none"> ビジョンには透明度の高さや県民との協働の観点を強調するべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が情熱を持って活躍し、県民の期待に応えることができる県行政、県組織を目指す姿としていくという意味から、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ビジョンに「県民のための奉仕者として」の表現を追加してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が情熱を持って活躍し、県民の期待に応えることができる県行政、県組織を目指す姿としていくという意味から、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 様々な組織との例示がNPOのみだが、市町村や地域で活動している団体を挙げるべき（同趣旨意見4件） 	<ul style="list-style-type: none"> パリュウの個々の説明については今回は省略し、別途趣旨について周知する予定です。なお、地域で活動する団体は、NPOの定義に含まれることから、県民参加と協働の推進の前文のNPOの記述に「地縁組織を含む」という説明を追加します。＜本文3頁を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> 「様々な組織」に「県民」を加えてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な組織には「県民」も含まれていると考えているため、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 7つの指針が取組の5つの柱とどのように絡んでいるかが明確でない。（同趣旨意見2件） 	<ul style="list-style-type: none"> 行動の指針は県組織のミッション・ビジョンを達成するための価値観・指針であり、5つの柱は行政・財政改革を進めていくための具体的な取組の柱立てとしています。
<ul style="list-style-type: none"> 「平均ではなく、最高を目指します」だけ項目として異質ではないか。（同趣旨意見6件） 	<ul style="list-style-type: none"> 平均的、中庸ではなく、より質の高いサービスを提供することができるような行政・財政改革の取組を進めるという観点から「最高」と記載しているものです。
<ul style="list-style-type: none"> 「具体的な結果」は「具体的な成果」の方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見も踏まえ、「成果をあげることにこだわりを持つ」と表記します。
<ul style="list-style-type: none"> 変化を恐れずでは今まで長野県組織や職員が変化してこなかったと捉えられないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 変化を恐れない姿勢を示すことは、別の視点であり、そう捉えられることはないものと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 変化を恐れずとか、平均ではなくなど、否定から入るのは違和感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ最高を目指すことと挑戦することの意思をメッセージとして強く発信するため合わせて記載しているものです。
<ul style="list-style-type: none"> 県民に信頼され、かつ安心される組織であるため、「主体的に考え」に「適正かつ公正な判断のもと」を加えたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見の趣旨も踏まえ、「主体的に考え」を「責任感を持って主体的に行動」に修正します。＜行政経営理念を修正＞
<ul style="list-style-type: none"> 「県としてどうしたいのか」「県として何をすべきか」に修正してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> パリュウの個々の説明については今回は省略し、別途趣旨について周知する予定です。
<ul style="list-style-type: none"> 「県としてどうしたいのか」を行動の指針とした方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 県としての意思を明確にするという考え方も踏まえ、「責任感を持って主体的に行動」という表現で整理したいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 県民のために何が最適化を考えて行動することを指針とした方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 県民のために何が最適化を考えて行動する考え方も踏まえ、「責任感を持って主体的に行動」という表現で整理したいと考えています。

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・「行政サービス」、「県民サービス」、「公的サービス」、「公共サービス」の定義を明確にされたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「行政サービス」は、行政が主体となって提供する場合。 ・「県民サービス」は、サービスを受ける県民が主体となる場合という整理で書き分けています。 ・「公的サービス」は、県、公共団体以外のNPOなどが提供するサービスも含めた概念で、そのうち、公共団体が提供するサービスが「公共サービス」と定義されています。
<ul style="list-style-type: none"> ・全体の奉仕者である点の記述が不足しているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の奉仕者であることは、大切な理念ですが、公務員としての基本であり、あえて表記しなくてもよいのではないかと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の検討の場づくりのみが目立ち、具体的に何をやるかが棚上げされているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組についてはできるだけ具体的に記載するよう配慮しましたが、新たな試みについて検討の場を活用して取り組んでいくものについてはその旨を記載しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ表記が多いので、注釈を付けるなどすべき。(同趣旨意見7件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ必要な注釈を付加します。

県民参加と協働の推進

1 県民協働の推進

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・現行の「人口減少などによる急激な少子高齢社会の到来」は因果関係が反対なので「急激な少子化による人口減少社会の到来」に修正すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ修正します。<本文3頁を修正>
<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい公共」の定義を注釈等で記載すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見のとおり注釈を付加します。

2 県民参加による対話型の行政運営

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・現在各課任せとなっているHPの掲載について広報県民課でチェックした上で掲載する仕組みが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの情報管理は、事業や制度の内容や進捗を把握している担当課で行うべきと考えています。また、頻繁な更新が行われているため広報県民課で一括管理することは難しく、古い情報が掲載されたままであったり、リンク切れが発生していることについては、各課にHPの管理の徹底を通知し、状況報告を求めており、今後も随時行ってまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用方法について研究を深めることが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSは、様々な可能性を秘めています。一方で利用方法を誤ると様々な問題が発生する媒体でもあり、利用方法や活用のルールについて更に研究を行ってまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り多くの意見を聴くという意味から「県民の声」「広く多様な県民の声」に変えてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広く多様な声を聴くことを意識した上で、表題としては現在の表記としています。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政運営への高齢者の参加を記載すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ、県の施策に関係する当事者の例示として女性、障がい者と並列して高齢者を追記します。<本文5頁を修正>
<ul style="list-style-type: none"> ・記載内容を実施しても答申内容が充実するとは限らないので、「審議会の活性化」「審議会の活発化」に修正してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論を活発化するのみでなく、より幅広い県民の参加を得て活性化を図ることを目指しているため、原文どおりとしたいと考えています。

人材マネジメント改革

1 意欲と能力のある人材の育成と確保

意見の概要	県の考え方
・職員一人ひとりに求められる資質と人材育成基本方針の目指すべき職員像は整合を図るべきではないか。(同趣旨意見3件)	・御意見のとおり整合を図るべきものですので、今後、人材育成基本方針の見直しのなかで具体的記述について検討していきます。
・職員自身が地域活動やボランティア活動などに参加することが大事なので、その点について踏み込んだ記載ができないか。	・ご意見のように地域活動やボランティア活動への参加は大切なことですので、人材育成基本方針の見直しのなかで具体的記述について検討します。
・「共感力」の「県民の思いを理解し」は一方通行であり、県の考え方を理解していただく視点も大事であることから、「県民と思いを共有し」と修正すべき。	・意見を踏まえ修正します。<本文6頁を修正>
・次世代を担う若手職員の育成に関する記述が必要ではないか。	・若手職員の育成については、人材育成基本方針の見直しのなかで具体的記述について検討します。
・定年延長に伴うマネジメント改革を追加してはどうか。	・定年延長については、人材育成基本指針の見直しの中のひとつの項目としているので、原案どおりとしたいと考えています。
・「ジョブローテーションの見直し」は、「人事異動」に変えてはどうか。	・ここでいう「ジョブローテーション」とは、人材育成計画にもとづいて定期的に職場の異動や職務の変更を行う「戦略的人事異動」のことであるので、単に「人事異動」等と変えることはできないため、原文どおりとしたいと考えています。
・育児休業期間を職務経験年数に一定期間反映する仕組みを導入する必要があるのではないか。	・昇任は、育児休業の取得の有無の問題ではなく、適任者について行うものなので、原案どおりとしたいと考えています。
・課長以上の女性比率や、教育部門における教頭・校長の女性比率の目標を追加してはどうか。	・係長級以上の職での女性比率拡大が重要と考えています。また、教員の登用については本方針の対象とはなっていないため、ここでは原文どおりとしたいと考えますが、県の男女共同参画計画において提案趣旨の取組を進めることとしています。
・女性だけ特別に能力開発する必要があるのか。また、採用においては男女平等であるべき。	・地方公務員法に定める平等取扱の原則及び成績主義の原則の枠組みを前提としつつ、男女共同参画社会づくりに必要な環境の整備は推進していきます。 また、採用については、女性の受験者数を増やすことを目標としており、試験自体は御意見のとおり男女平等に実施すべきものと考えています。
・超過勤務対策だけでなく、年次休暇や介護休暇を積極的にとることができる職場環境についても記載願いたい。(同趣旨意見2件)	・意見を踏まえ、「男性職員を含む育児休暇の取得促進を図るなど」「育児休業、介護休暇や年次休暇等が取得しやすい勤務環境の整備を図るなど」に修正します。<本文7頁を修正>
・育児休暇の取得目標を入れてはどうか。	・意見を踏まえ、以下の指標を追記します。<本文7頁を修正> 【育児休業の取得目標】 平成26年度 女性：100%に近い現行水準を維持 男性：5%以上
・人材の確保の項目に、民間企業等への派遣制度の充実を入れてはどうか。	・民間企業等への派遣制度の充実などの研修制度の改革については、人材育成基本方針の見直しになかで具体的記述について検討します。
・採用の主体を占める学卒者の記載がないのは不適切ではないか。	・この項は、通常の採用以外の高度な専門性を持った人材の確保について述べています。
・県の業務には有資格者が必要な業務があるので、「多様な人材の確保に努める」「多様な人材を確保する」へ修正してはどうか。	・多様な人材と有資格者とは異なる考え方であるため、原案どおりとしたいと考えています。

2 人事評価制度を含めた人事給与制度の改善

意見の概要	県の考え方
・制度を活用した上司と部下のコミュニケーションの活性化という表現は、制度がないとコミュニケーションがとれないという印象にならないか。	・意見を踏まえ、「上司と部下のコミュニケーションの更なる活性化」に記載を修正します。<本文7頁を修正>
・給与制度検討会は人勤制度下では設置すべきではないのではないか。	・任命権者としての検討を行うものであり、検討の結果、人事委員会における検討が必要なものはその旨要請していく考えであるため、原文どおりとしたいと考えています。

行政経営システム改革

1 組織風土の改革

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・「職員数の削減を図りつつ」とあるが、行政経営システム改革は人減らしを目的に行うものではないため、この箇所での記載はなじまないのではないか。 ・「法律や制度上の制約を理由に自ら行動しない姿勢となることなく。」とあるが、法律や制度を守らなくてよいという誤解を招く表現であるため、記載しない方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員削減が目的ではありませんが、持続可能な行財政基盤を確立しつつ、県民から理解の得られる簡素で効率的な組織体制とするためには、職員数の削減にも取り組むことが必要なことから原文どおりとしたいと考えています。 ・法律や制度を理由に課題に対して行動を止めてしまうような姿勢にならないことが求められているため、原文どおりとしたいと考えています。

2 しごと改革（業務の生産性の向上）

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・「業務の生産性の向上」とあるが、公務職場にはなじまないため、削除するか、「事務事業の集中化・効率化」とするべき。（同趣旨意見2件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公務職場においても、業務の効率化などの生産性の向上は求められるものであるため、原文どおりとしたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・「現地機関の声を組織全体で共有し」とあるが、具体的にどう共有していくかがわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方事務所長からの提案された施策のうち、予算化されたものは組織の中で実施されていきます。また、現場の声についても、受付けた部局が関係課所に積極的に情報提供することなどにより共有を図っていく予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・現行の政策評価や事業仕分けの手法を更に強化し、優先順位をつけて財源配分を根本的に見直す旨の記載が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政策評価・事業点検に関する新たな仕組みは24年度に検討・試行することとしており、今後内容等について検討していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・「事務量の縮小」は事務事業を表すのではないかと考えるため、他の記載ぶりと合わせ、「業務量の縮小」とするべき。 ・事務の効率化については、事務のムダを知っている職員の声を反映するシステムを構築するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ、「事務量」を「業務量」に修正します。＜本文11頁を修正＞ ・事務事業については、直接携わっている職員自らが積極的に見直しを行っていくことが大切と考えており、そうした取組を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・民間の取組なども参考にした効率的な行政運営についても明記すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間等の取組も参考にし、業務の改善・効率化の様々な取組を進めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・住基ネットの利用分野の拡大の記載を追加してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住基ネットは本人確認情報を扱う非常に機密性の高いシステムであり、利用分野の拡大については、利用担当課のセキュリティ対策や利用による費用対効果等慎重に検証する必要があることから、個別に利用担当課と利用の有無について検討を行ってまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・公用車のリース化、リース契約の集約化を検討するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公用車のリース化については、予算の平準化や現地機関の公用車についての効果額の検証など多くの課題があるため、検討課題としたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・事務用品の在庫管理を集中在庫管理方式へ改めるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務用品については、現行も各課（所）において必要最小限の物品をなるべく安価で購入しており、適正な管理が行われているものと認識しています。集中的な在庫管理方式の実施は、保管場所の確保、発送経費の支出増、事務処理の煩雑化など課題が多く、かえって非効率であると考えています。

3 アウトソーシングの推進

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度の導入、地方独立行政法人化のいずれも、具体例を挙げると、導入する施設と誤解されかねないため、具体的な施設名は入れない方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能性について検討することは必要と考えているため、原文どおりとしたいと考えています。

5 県組織の見直し

意見の概要	県の考え方
・24年度も組織が増え、スクラップ・アンド・ビルドになっていないので、より踏み込んで記載すべき。	・スクラップ・アンド・ビルド徹底を再認識する意味で記載しています。
・試験研究機関について、「新たな総合5か年計画の方向性を踏まえ」と特別に記載しているが、他の機関も同じであり、特別に記載するべきではない。	・新たな5か年計画の方向性を踏まえ検討していくことはどの組織も同じであることはご指摘のとおりですが、組織全体を見渡す中で、試験研究機関については、特にあり方の検討や機能の見直しが必要と考えています。
・県組織の見直しに当たり、実際に業務を行っている現場の意見が聞き入れられないことのないようにするべき。	・ご指摘の点を踏まえた上で組織の見直しの検討に当たってまいります。
・一旦統廃合したら元に戻すことはあり得ないので、「見直しの成果を検証しつつ」の表現は削除するべき。	・成果の検証は必要であり、一旦統合した組織でも状況により、再検討することもあり得るため原文どおりとしたいと考えています。

6 定員の適正化

意見の概要	県の考え方
・数字が一人歩きする可能性があるため、年次別定員適正化計画の記述を削除するべき。	・定員の適正化は本方針の重要な柱であり、持続可能な行財政改革運営を図るための目標となる計画（財政試算の基礎）の位置付けでもあるため、削除はできません。
・少数精鋭で効果を上げるの表現は誤解を招かないか。「最小限の職員数」とした方がよいのではないか。	・少数精鋭という言葉は一般的と考えるとともに、「限られた人員の中で質の高い行政運営を実現すること」は大切であると考えていることから、原文どおりとしたいと考えています。
・職員数を減らし、代わりに非常に非常勤職員を配置するのは、矛盾ではないか。	・はじめに職員数の削減ありきではなく、業務を効率的に配分した結果として非常勤職員の活用が検討されるという趣旨です。

7 外郭団体の見直し

意見の概要	県の考え方
・公募による採用について各団体に要請するという表現が正しいのではないか。	・公募による採用は県として強制できるものではなく、各団体の主体性に任されるものであるため、提案の表現では強いと判断されることから、原文どおりとしたいと考えています。

財政構造改革

1 歳入確保の取組

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none">・特別徴収への切り替えを推進する班を組織し、取組を進めた結果、徴収率が劇的に回復している例があるため、県全体で特別徴収義務者全指定に向けての取組を強力に推進することを希望する。・ただし、入札参加資格申請時の要件化などのペナルティーによるインセンティブは、段階的に推進する方法がより現実的ではないか。	<ul style="list-style-type: none">・個人住民税の特別徴収については、これまでも事業者に対して市町村と共同依頼をしてきたが、特別徴収義務者の全指定については、市町村の中に様々な意向があることも承知しており、まずは、県として実施できる入札参加資格の要件化を進め、市町村においてもこうした取組が進むことを期待しつつ、市町村と意見交換を実施する中で、今後の検討を進めていきます。

2 歳出削減の取組

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none">・協議会等負担金の見直し以外の各種大会の負担金や交付金の見直しについては、なぜ記載がないのか。	<ul style="list-style-type: none">・方針では、「主な検討内容」としていくつかの項目を掲げていますが、これらに限らず、聖域なく徹底した見直しを毎年度実施してまいります。
<ul style="list-style-type: none">・操作に慣れたシステムが、別の業者のシステムになると混乱をきたすので、システムが安くなるからといっても、入力画面が全く新たに変わることがないようにしてほしい。	<ul style="list-style-type: none">・システムの導入や更新をする際に、ご指摘の点も参考に検討を行ってまいります。

3 改革の効果と財政見直し

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none">・「改革実施後の財政見直し(平成24年2月)」の表に、試算の基礎となるH23予算(2月補正後)の数字を加え、増減は「H28 - H24」ではなく、「H28 - H23」とすべき。H24の数字はあくまでも計画値であり、H28とH24で比較する意味がないのではないか。	<ul style="list-style-type: none">・平成24年度当初予算の数値を基礎にして今後の財政見直しを作成し、H24との比較をしているものであるため、原案どおりとします。

地方分権改革

3 市町村や近隣県との連携強化

意見の概要	県の考え方
<ul style="list-style-type: none">・市町村との連携強化の記述が弱いのではないか。	<ul style="list-style-type: none">・意見の趣旨も踏まえ、「長野県独自の自治のあり方」「市町村や近隣県との連携強化」の部分の記載を修正します。<本文34頁を修正>
<ul style="list-style-type: none">・将来道州制が導入された場合を想定して、隣県との連携の視点も重要ではないか。	<ul style="list-style-type: none">・意見の趣旨も踏まえ、「長野県独自の自治のあり方」「市町村や近隣県との連携強化」の部分の記載を修正します。<本文34頁を修正>